



イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 553 回 中学生の税の作文・日本一！

2013.12.1

「自分で自分を褒めてやりたい」、どこかのマラソンランナーの言葉だが、今回は、そんな自画自賛コラムである。文字通り、恐縮ですが…に尽きる。m(_)_m

「納税貯蓄組合」という団体がある。日本の税制が確立しつつある昭和 26 年に、議員立法で成立した「納税貯蓄組合法」に基づき、納税資金の備蓄による各種税金の円滑な納付を目的として組織された団体だ。全国組織の全国納税貯蓄組合連合会によると、平成 25 年 3 月末現在 3 万 4 千 500 組合、組合員数 151 万 4 千人の構成で成り立っている。単位組合がいくつか集まった連合会(通称「署連」と言っている)は、全国の税務署ごとに組織され、税務署の数、つまり全国 524 団体存在する。色々な活動をやっているが、メイン事業の一つに国税庁と共催の「中学生の税の作文」募集事業がある。

ここからが自慢話である。小生、その「熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会」の会長に就任して 16 年目になった。就任当初の作文応募総数は、299 点だった。本年度の事業結果、「熊谷署連」は作文応募数 8,453 点で、会長就任当初の 28.3 倍となった。そしてその結果は、署連別ランキングで「日本一」に輝いた。しかも 6,000 点台である第 2 位を 1,000 点以上上回る圧倒的実績で、47 回を数える募集事業の歴史の中で、初めての快挙である。熊谷税務署管内中学校 30 校全校から、前年対比 134.8%、応募校率 100%、応募率 81.6%と、大変素晴らしい結果を上げることができた。熊谷・深谷・寄居の中学生 10 人集まると、その内 8 人以上が税の作文を書いてくれた…、全国的にも例のない、驚異的実績と言っても過言でないと思っている。

我々は、その全ての作品に目を通している。思わず涙ぐむほど、素晴らしい作品が数多くあった。大人にもない、率直で、ユニークな発想の提案や提言もあった。うれしくて、作文を読むのが楽しくなった。

小・中学校の義務教育の中で、国を支える財政や税の仕組み、租税教育の機会は、極端に少ないのが現状である。次代を担う少年達に、税の大切さを教えていない先進国は、日本以外にない。教育改革が歴史認識に偏向した論議だけでは、どうも事足りない。作文を書いてくれた中学生は、学校であまり学んでいない税の事を、一生懸命インターネットで調べただろう。お父さんに聞き、お母さんと話し、税の話題で食卓が盛り上がったこと、減多にない事だったに違いない。数少ない税の知識を、3 枚の原稿用紙にまとめ応募してくれた、たくさんの少年達、ご理解頂いた先生方に、心から感謝したいと思っている。